

M23a 太陽観測衛星 SOLAR-C 計画 V:ワーキンググループの活動進捗報告

常田佐久 (国立天文台)、JAXA SOLAR-C WG

われわれは、ひのとり (ASTRO-A)、ようこう (SOLAR-A)、ひので (SOLAR-B) と続いた太陽観測衛星がもたらした科学的成果をもとにして、次の太陽観測衛星「SOLAR-C」計画の検討を進めている。SOLAR-C 計画では、

- 黄道面を離れた軌道から太陽磁気周期の起源・極領域活動性の理解を目指す A 案
- 高解像度の分光・偏光観測に重心をおき、「ひので」により見出された彩層・遷移層・コロナの磁気散逸ダイナミックスの根本的理解を目指す B 案

の二案を並立させて検討を進めている。前者は衛星機能に、また後者は観測装置に先端的な技術を要する。それぞれを最高のミッションとするために、国内はもちろん海外の研究者や技術者を巻き込んで、科学目的の設定や観測機器の検討を行ってきた。また、SOLAR-C に必要とされる基礎技術についての検討を進めるほか、一部については開発研究を実施している。これらの検討は、SOLAR-C 提案書として結実しつつある。それと同時に NASA、ESA といった海外宇宙機関との協力体制を模索してきた。2010 年には NASA 内に SOLAR-C の共同作業部会が発足し、SOLAR-C への協力体制が構築されつつある。これらを含め SOLAR-C 関連の進捗状況について報告する。